

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102297		
法人名	(有) スローライフ・プランニング		
事業所名	グループホーム ぎんなん(ユニット:おかげさま)		
所在地	長崎県西海市西彼町下岳郷921-1		
自己評価作成日	平成21年12月1日	評価結果市町村受理日	平成 22年 3月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成21年12月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本人、家族の意向に耳を傾けその意思に寄り添う介護を行ないたいと思います。利用者の方々一人一人の思いで生ききっていただきたいと考えています。また、社会参加を促し、地域との関りを深め生きがいを見出してもらいたいと考えます。(アピールしたい点) 正社員・パート等全員で利用者に関わる・全員で常に見直しを掛け全員でお守りする・職員が優しく、年齢層が幅広い・開放感のある施設・風光明媚な環境・どんぐり銀行などを行い、障害者・児童を受け入れる事の出来る場所を目指しているところです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念があり、職員は概ね理解している。理念に添ったケアが実践できる様、カンファレンス、ミーティングの際、日々の職員の対応、事業所の方向性を話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なわれている行事、イベント等へ参加した、事業所で行なう行事等にも地域の方を招待するなどして、地域との交流を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、地域の方にも参加して頂き地域の高齢者、現在お困りの方がいれば、その情報をお聞きし、気軽に相談ができる窓口である事を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内イベント等の案内。防災活動。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などの参加依頼、個々の利用者・近隣の相談を持ちかけるが反応は厳しい物がある。介護制度の目的と地域密着型サービスの制限等に悩まされている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中施錠はしておらず、自由に入出りができる環境を作っている。職員も、身体拘束、言葉による拘束を行っていないか、日々の対応を振り返り、カンファレンス等で意見を出し合い、互いに注意できる関係を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は現在あっていないが、それにつながる行為はないか、職員間で注意しあい、カンファレンスや会議の場で気付きを出し合っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の利用が必要と思われる方については関係者と十分話し合い、制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居の際には、本人、家族の意向を十分聞き、必要があれば、何度でも話し合う機会を設けている。改定などがあれば、その都度手紙などで知らせ、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議を行い、御家族等の意見をお聞きし、取り入れる機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングで職員の意見を聞く機会を設けている。職員個々の気付きや意見も日々聞くよう努め、可能な事は、十分検討し取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の陰での努力も把握し、感謝の気持ちを持って接している。職員の頑張りを認め、評価してくれている事が、やりがいへつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や学ぶ機会があれば、その情報を職員へ知らせ、積極的に参加を促している。ミーティングやカンファレンスでも勉強する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの研修生や、訪問を積極的に受け入れ、互いの事業所の行事があれば、参加の声かけをしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のお困りごと、不安、要望をお聞きし、本人の思いに添ったケアができる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも話し合いを持ち、意向を尊重しながらグループホームでの支援の方法を理解してもらえるよう説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活が、本人にとって、最も良い選択であるか検討し、必要があれば、他のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる事、できない事を見極め、職員間で共有し、できる事は行なってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で、本人の様子を伝える様になっている。職員の対応だけでは、利用者の不安を取り除く事ができない場合などは、家族に事情を説明し、協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望があれば、自宅へお連れしたりしている。また、地域の店等を利用する事で顔なじみの方や、近所の方との交流を続けて行けるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が互いに助け合い、関わりを持てるような支援を心がけている。思い違いなどでトラブルになりそうな時には、職員が間に入り良好な関係が保てるようサポートしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事やイベント等がある場合はお誘いしている。退所した家族が敬老会や誕生会で歌や踊りを披露してくださったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	11分類シートを使用し、月2回のカンファレンスを行い、利用者の思いを探り、職員間で共有し、本人の思いを大切にケアの実践を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から、これまでの生活の様子等を出来るだけ詳しくお聞きし、入所してからも本人や家族から生活歴などをお聞きし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のペースを把握し、それに添った支援を心がけている。心身の状態や、有する力についても日々のケアの中での気づきを大切に、カンファレンスなどで話合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のカンファレンスを行い、利用者の現状に添ったケアを行なえるように努めている。利用者の日頃の様子を、家族へ伝える事で家族から新たな希望があれば、ケアの中に取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子を生活チェック表に記入し申し送り等で、職員間で共有している。また、カンファレンスの際に気づきや、変化など意見を出し合い介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援できる事とできない事を見極め、家族と十分に話し合い、支援可能な事については、柔軟に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、散髪、病院など、利用者が以前から利用していたり、希望する所へお連れし関わりを継続する事で、暮らしを楽しんでもらえる様工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を基本としている。利用者の状態に変化があり、新たな医療機関への受診が必要になった場合は、家族へも相談し、出来るだけ希望に添える様にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の訪問看護、言語聴覚療法士の来所があり、気になる事や疑問を相談している。必要があれば、医療機関を受診し医師へも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーや看護師との連絡を密にし、利用者の状態を把握するように努めている。また、面会に行くなどして利用者、家族へ安心感を持って頂ける様配慮している。医療機関への定期的な受診等を通して、相談しやすい関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルケアの説明を行い、本人、家族の意向を聞いている。その後も必要に応じて何度も家族や、医療関係者と話し合い、家族や本人の意向を大切に支援を行なっている。必要があれば、訪問看護も利用している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応等の訓練は、定期的に行なっておらず、全ての職員が実践力を身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通じて、緊急時の対処方法等を確認し、疑問、不安があれば皆で検討したり、専門家に相談するなどしている。地域との協力体制も取れている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねないような対応が出来ていると思うが、時々配慮に欠ける対応をしているスタッフも見られる。その場での注意や、カンファレンスの際に振り返りを行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員で決定するのではなく、本人の希望を聞き決定できるような関わりをしている。カンファレンスで本人の思いを考え、ケアに活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望があれば、それにできるだけ添える様、職員間で業務の調整を行なっている。本人の生活のペースを理解し、それを大切にしたいケアが行なえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣味やこだわりを把握し、支援している。自分では、季節やその場に合った衣類の選択が出来ない場合は、職員が本人と一緒に選ぶ等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作っている野菜の収穫や、毎日の買い物を一緒に行き、食材選びから行なっている。配膳、下膳、後片付け等利用者ができる事はやって頂き、職員がサポートしている。週2回、利用者と一緒に1日のメニューを決める等している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表に1日の食事摂取量、水分摂取量を記入し利用者それぞれの摂取量が把握できるようにしている。利用者それぞれの食べる力や好みを大切にしたい支援を行なっている。気になることは、言語聴覚療法士へも相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをしている。必要な方には介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツやパットを使用せず、声かけや誘導などを行い、できるだけトイレや尿器での排泄を促している。日中、夜間で布パンツ、紙パンツの使い分けを行い、本人が快適に過ごせる様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がある方に対しては特に、毎日の排便の有無や量等を把握できるよう努め、必要な方には医師の指示のもと、服薬でのコントロールをしている。便秘がちな利用者には、牛乳や繊維質の食事の提供、運動や散歩を促すなどして便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日、時間を決めずに希望があった時に入って頂ける様に毎日準備している。入浴拒否が続く方には、無理強いせず本人が気持ちよく入浴できるよう声かけを工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間と居室を自由に行き来ができる環境である。自分で意思を伝える事の出来ない方に関しては表情顔色を観察し疲れた様子があれば居室で休んで頂く様支援している。夜は消灯時間を決めず、本人の習慣を大切にしている。夜間不安がある方には、不安を取り除き安心して休んで頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人ケースに保管し職員がいつでも見ることができる様にしている。薬に変更があった場合は、その理由も確実に申し送りを行い職員で共有し確実な支援を心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれが得意としている事、好きだった事を知り、日々の生活に取り入れ張り合いのある生活を送ってもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、毎日の買い物等に同行してもらったり、ドライブへお連れしたりしている。天草出身の利用者を、家族の協力を得て墓参りにお連れする事ができた。		



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員の支援があれば、金銭の管理が可能な方については、自分で管理していただき、買い物などへお連れしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時は、出来るだけ自分で電話をかける事ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の空調の管理、明るさ等利用者にとって、不快なものにならないよう配慮している。リビング、玄関等に季節の花を飾るなどして季節を感じてもらえるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等で、気の合う利用者同士でおしゃべりを楽しんだり、テレビを見たりと、思い思いに過ごす事ができる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や、使いやすい物を家族と相談し持参してもらったり、購入したりしている。テレビや家具の配置なども本人が使いやすいように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室と分かるように名前や目印をつけたりトイレなどにも大きく表示をして自分で自由に行く事ができるように工夫している。		